

開催日 11月12日・・・ビバーク講習会

13日・・・ファーストエイド講習会と簡単ロープワーク

1. ビバーク（不時露営）講習会

道迷い、日没間近で正規ルートへの復帰困難。

突然のアクシデント発生。自力歩行困難。救助隊の到着まで自力生存しなければならない。

このような事態に陥ってしまった場合、どう対処したら良いでしょうか。まずは自身の生存空間を確保しなければなりません。この時に携行しているツェルトを使用して、シェルターを構築します。今回は、このツェルトの張り方を勉強します。また、寒くなり始めたこの時季、実際に日没後にビバークとなった場合にどのような状況になるか、実際に体感してもらいます。



まずは、ツェルトを取出し、グラウンドシートの紐を結んで底を合わせます。

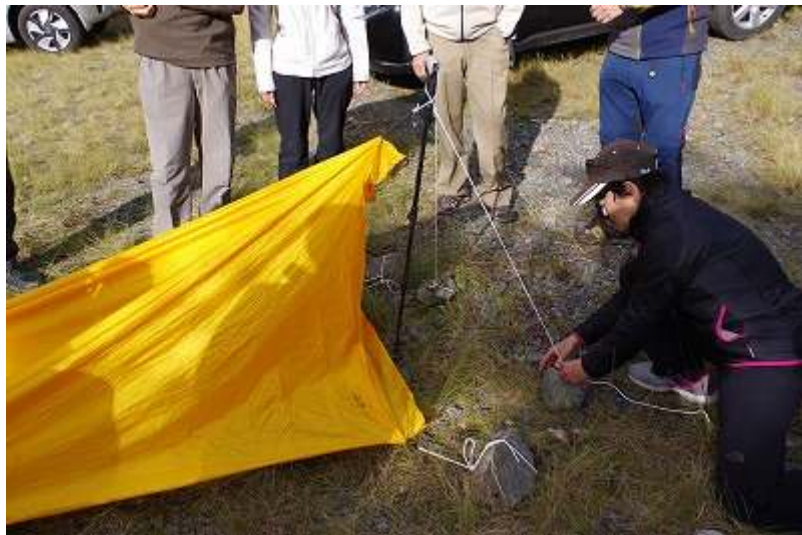
実際は、この前に場所の選定をしなければなりません。崖の近くで、落石の危険が無い、流水の近くで、急な増水が起こっても危険が無い、といった安全性を確認します。



次に四隅を固定。張り綱は予め取り付けておきます。長さは概ね 50 cm。ループにカウヒッチで取り付けておけば、交換が簡単になります。



ポールを立てます。四隅が固定
されていれば、簡単に立てられま
す。ポールは、専用品でなくても、
レッキングポールで充分です。もし
これも無ければ、木の枝などを採
します。



サイドウォールも張っておくと内部
が快適になります。



製品によっては、サイドウォールにループが付いていない物があります。メーカーが同じでも、モデルによって違いがあるので、購入の際には注意が必要です。

ループが付いていないモデルであれば、この様に直結びで張り綱を留める事ができます。内側に結び目を作るためのだんごを作ります。物は何でも構いません。小石程度の大きさです。小石でも良いです。

傘を使う手もあります。



外気の影響を極力避けるためにはシェルターの構築が必須です。実際に、日が落ちて気温が低下してくると、ツェルトの布地が触れてしまうと非常に過ごし難くなるのが分かります。

また、地面からの冷気が非常に強い事が分かります。まずはザックを下に敷く、大きなビニール袋を持っていれば、それに枯葉を集めて中に入れ、即席マットレスを作る、など考えられる事はなんでも工夫してやらなければなりません。

2. ファーストエイド講習

パーティーメンバーが負傷。その時あなたは？

山行中、不慮の事故に遭遇、受傷。まず求められるのは、当然自力対処。でも、どうすればいいのでしょうか。



まずは、傷口の洗浄を行います。傷口に付着した泥などの異物を取り除かなくてはなりません。ペットボトルを利用して洗浄する場合、この様にキャップに小さな穴を開けると、洗浄効果を高める事ができます。





次に、傷口にガーゼを当てて止血を行います。止血は、圧迫止血法です。相当程度の力で押さえます。1分程経過したら、状況を確認します。



三角巾の使用方法については、別紙資料を添付します。



搬送法① ヒューマンチェーン
搬送者が要救助者を挟んで両側に並び、お互いの手首を互い違いに握ります。

先頭の手が余りますが、これで要救助者の頭部を支えます。



頭部を支えている人が搬送のリーダーになります。持ち上げる時は、まず膝の高さまで、次の段階で立ち上がります。リーダーが必ず合図を出します。

搬送は要救助者の足が先になります。

搬送法② 少人数搬送

上体に1人、要救助者は腕を組み、その下から抱え込みます。他の救助者は下肢を持ちます。





簡易背負子による搬送
ザックに要救助者の下腿部を載せる部分を作ります。

トレッキングポールが有用ですが、このままだと痛いので、タオルでクッションにします。



要救助者を介助して背負います。
脇の下から上体を支え、下腿部から体を持ち上げます。



スリング等があれば、この様に搬送者をスリングで結束して介助します。また、要救助者と搬送者も、スリングで結束しておきます。

3. 補足事項

「善きサマリア人の法」

災害や急病人を救うために、その場に居合わせた人が無償、かつ善意で行った救急活動について、良識的かつ誠実にした事であれば、たとえ失敗しても法的な責任は問われない、とするもの。アメリカやカナダなどで立法化されている。国内においては、赤十字社や公的機関による啓発活動のための用語として用いられる例がある。

傷病者を見つけた場合、まずは何らかの対処を考えるのは当然。それが自分のパーティーだとしたら尚更の事。とは言え、最低限の知識を持ち合わせていなければ助ける事ができません。これは、山に限らずどこに居ても同じ事です。ぜひ、基本的な応急処置は覚えておきたいです。

「トリアージ」

識別救急。救急事故現場において、患者（要救助者）の治療順位、搬送順位を決める事を指します。これは、救急関係者、医療関係者には既に標準化されています。大事故や大災害が発生した時に、限られた人的資源、医療資源を効率的に運用するための概念です。

我々一般者には、標準化の定義は不要ですが、山中で事故に遭遇して、その傷病者が複数であった場合には、落ち着いて状況を見極め、優先度をつけなくてはなりません。あれもこれも、と一度に手を出すことは不可能です。効率的な救助活動を行うために心得ておかななくてはなりません。